

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立久保泉小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

(注)質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点を御理解いただいた上で、御覧ください。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	87.0	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	78.2	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	91.3	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎学習時間をしっかりと確保し、課題解決に向けて自ら考え、学び方を工夫して学習に取り組もうとする姿が見られます。

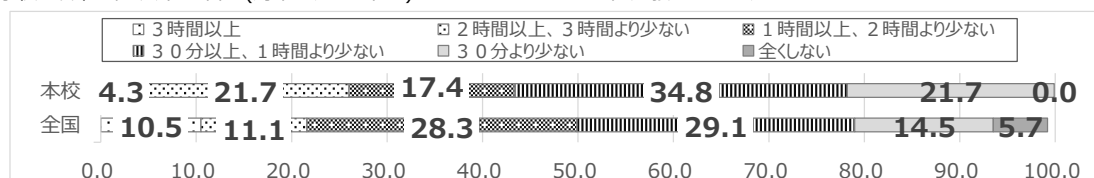
◎学習の振り返りを行い、次時の学習につなげようと姿勢が見られます。

●話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる力を高めていく必要があります。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	86.9	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	91.3	78.4

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日) 1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	78.3	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	91.3	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	73.9	85.7
21	普通の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	91.3	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎多くの児童が将来の夢や目標をもっており、普段の生活の中で幸せを感じながら生活している様子が見えがえす。

◎人の役に立ちたいという思いが高く、他者や社会への関心が育っています。

●児童一人一人がもっている自分のよさに気付かせ、学校に行くことが楽しいと感じさせるような支援が必要です。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100.0	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	78.3	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

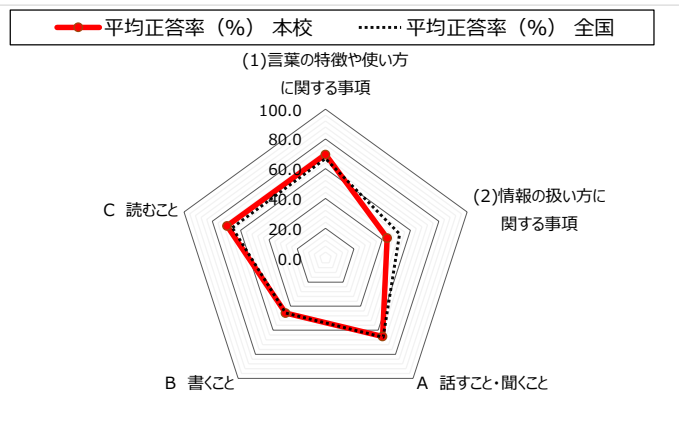
- 主体性を伸ばすための3つの力「自律」「尊重（自由の相互承認）」「創造」を育んでいきます。「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるように、主体的、対話的で深い学びの視点で、日々授業改善を行って授業づくりをしています。
- 子どもが安心して自分の考えを表現し、互いの考えを尊重しながら学び合える授業づくりを進めます。
- 子ども自身が考え、選択し、対話を通して納得解を見いだしていく経験を大切にします。

【御家庭では】

- 子どもの話に耳を傾け、「どうしたの？」「あなたは どうしたい？」と考えを引き出す対話を大切にしてください。また、結果だけでなく挑戦する過程にも目を向け、「何か手伝えることはある？」という伴走の姿勢で見守ってください。なお、結果だけでなく、考えたことや挑戦したことにも目を向け、認め励ます言葉掛けをお願いします。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	69.6	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	43.5	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	65.2	65.8
	B 書くこと	45.7	45.7
	C 読むこと	69.6	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	61.8	61.9
短答式	60.9	62.6
記述式	56.5	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎「知識及び技能」の(1)言葉の特徴や使い方に
関する事項が、全国を2.8ポイント
上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の
根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や音読など「のびるタイム」の成果が表れてい
ると考えられます。

●文章から必要な情報を読み取り、内容を理解する力は付いてきていますが、資料(図
や写真)と文章を関連付けて読み取る力に課題が見られます。

●「話すこと・聞くこと」「読むこと」と比べ、「書くこと」に苦手意識をもつ児童が多いです。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 二 (3)	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる	73.9	65.2
3 一	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる	82.6	76.7

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 二	考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる	39.1	48.9
3 二	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	47.8	55.6

調査結果を受けて

【学校では】

○今後も「のびるタイム」の継続と充実を図り、児童の言葉の力をさらに伸ばしていきます。

○読む・書く・話す活動を関連付けた授業改善を進めます。目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

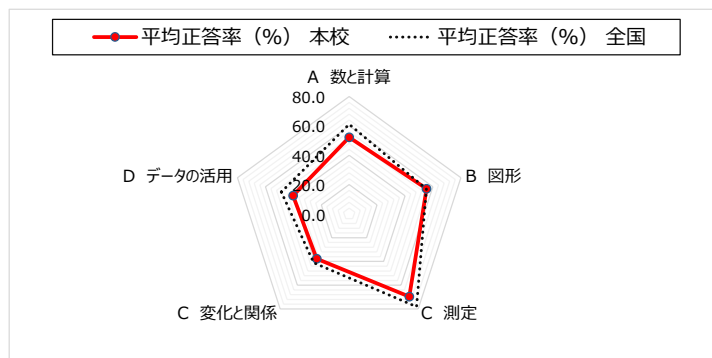
【御家庭では】

○音読を大切にしましょう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。

○読書を大切にしましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	52.2	61.1
B 図形	55.4	55.3
C 測定	69.6	78.1
C 変化と関係	37.7	41.1
D データの活用	40.2	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	51.3	56.0
短答式	55.4	59.7
記述式	40.6	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎「図形」の領域の平均正答率が、全国平均を0.1ポイント上回りました。
- 記述式の正答率が特に低いです。答えを求めることに加え、「なぜそうなのか」を説明したり、自分の考えを、式や言葉を使って論理的に書いたりする機会を増やします。
- 二次元の表から必要な情報を読み取るなど、複数の考え方を比較したりする力には課題が見られます。問題の条件や資料から必要な情報を読み取り、根拠を基に考えようとする姿勢を育てていく必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (2)	直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる	78.3	63.0
2 (3)	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる	47.8	36.1

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (4)	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	34.8	45.2
4 (3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	8.7	17.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 式から答えを出すだけではなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【御家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストを御覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉を掛けてください。分からないことがあったときは、すぐに答えを教えるのではなく、一緒に考えたり調べたりする時間を大切にしてください。
- 「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが大切です。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、生活場面で算数を使ってみてください。